

## 編集者のことば

本号は、1993年度から始められた本研究所のプロジェクト研究である「都市における土地政策と土地利用制度に関する国際的な共同研究」の一環として行われた研究成果としてまとめられた論文6篇を中心に、本研究所研究員の投稿論文5篇のほか、二つの講演記録により編集した。

まず、西山康雄、武内和彦、福川裕一及び中井検裕の論文は、上記共同研究の一環として、いずれも1993年度に「都市計画と土地利用」というテーマの下に行われた研究報告をもとに執筆していただいたものである。また、福岡峻治及び玉川英則両研究員の論文は、この共同研究の一環として、それぞれ住宅マスタープランの枠組みと制約条件、及び土地利用コントロールの観点からの土地利用分析の方法論を考察したものである。

つぎに、個別論文として、柴田徳衛「戦後日本の都市交通」は、戦後日本交通政策の展開を自動車交通の面からたどり、その政策転換の必要性和方向を示唆したものである。石田頼房・昌子住江「石原憲治論稿」は、石田頼房教授が長年温めてこられたテーマとして、本学で最初に都市計画の講義を行なった、元建築工学科教授石原憲治をとりあげ、その人となり・業績をこの際とりまとめられたものである。高橋勇悦「沖縄県那覇市の住民組織について」は、本誌53号寄稿論文に引き続き、那覇市における代表的な住民組織である「自治会」の形態的・構造的特質の分析をもとに、その機能的特質を明らかにしたものである。萩原清子「都市環境の創造と経済的手段」は、都市の環境創造における経済的手法の意義と、環境に関する経済的価値評価のさまざまな手法の有効性を論じたものである。中林一樹他「都市環境の安全性と居住性に関する居住者評価の国際比較研究」は、地震地帯に立地する世界の諸都市をとりあげ、日常的居住性と災害時の安全性の観点から居住者による環境評価をもとに都市環境の比較分析を行い、その特徴と環境整備上の課題を明らかにしたものである。

第三は講演記録である。一つは、上記共同研究活動の一環として催したロンドン大学のD.R.ダイヤモンド教授による「イギリス都市計画の成功と失敗」と題する講演の記録である。もう一つは、都市科学研究科設置記念講演の記録である。これは、大学院都市科学研究科が本研究所を基礎に、昨年4月1日に設置されたことを記念して、「都市環境の管理と計画について」をテーマに、下山瑛二元本学総長と広原盛明京都府立大学学長を招いて5月21日に催された学術講演の記録である。当日は国際交流会館の大会議場が満員となる盛況であった。

ところで、本研究所長の石田頼房教授は今年の3月をもって定年退職されることになった。

本号は、新しいプロジェクト研究の成果を中心にして、研究員諸氏の研究成果を盛り込んでとりまとめ、石田頼房教授退職記念号の意味をもつものとして編集したものである。

1995年3月

福岡 峻 治